

平成 29 年度第 5 回 障がい児支援体制検討部会

結果概要

平成 29 年 12 月 14 日（木曜日）19 時 00 分～20 時 40 分
札幌市役所本庁舎 12 階 5 号会議室

【出席者】

委員（敬称略）：上田、加藤、菊池、北川、藤原、古川、山田：7 名（欠席：才野、渡辺）
事務局：中田企画調整担当課長、名塚調整担当係長：2 名
オブザーバー：長棟地域支援課長、米島調整担当課長：2 名

【議題 1 第 4 回会議の結果概要】

確認を兼ねて、資料 1 を基に、第 4 回会議の結果概要を説明。
御質問・御意見はなし。

【議題 2 答申素案の検討】

資料 2 を基に、事務局で作成した答申素案を読み上げて説明。
主な御質問・御意見等は下表のとおり。

| | 発言者 | 内容（答申素案別紙のページ数） | 対応 |
|-----|---------------------|---|--------------------|
| (1) | 児童発達支援センターの支援体制の在り方 | | |
| ① | 加藤、北川 | 【職員研修等の質的な転換】 職員研修や事例検討について、先進的な取組として評価されているのは良いことだが、何年かやっている中で、単に何回実施したという回数ではなく、質的な転換が必要ではないかということ、各センターでは考え出している。 障がい児地域支援マネージャーという新しい取組が始まり、センターの役割や責任が少しずつ変化してきていることから、今までとは違った形で支援ネットワークを構築することが必要であると考え。（4 ページ） | 事務局で修正案を検討する |
| ② | 加藤、北川 | 【専門職の地域派遣、後方支援】 将来の話ではあるが、「児童発達支援センターや障害児通所支援事業所に作業療法士や理学療法士の派遣等を行う」という趣旨について、長い時間をかけて通所する子どもが多い現状から、今後、ニーズが高まっていくと考えられる。 （5 ページ） | 参考意見のため、答申には反映しない。 |

| | | | |
|---------------------|-------------|---|--------------------|
| ③ | 古川 | <p>【障害児通所支援事業所の定義】</p> <p>「障害児通所支援事業所」という記載と、「児童発達支援事業所」、「放課後等デイサービス事業所」、「児童発達支援センター」という記載の関係が分かりにくいため、定義を明確にした方が良いと思う。</p> <p>(全体)</p> | 事務局で修正案を検討する |
| (2) 市有療育施設の在り方 | | | |
| ① | 上田、北川、藤原、古川 | <p>【自閉症児支援センター（さぼこ）と児童心理治療センター（ここらぼ）の施設運営の在り方】</p> <p>「課題を整理し、民間による運営を含め、将来的な在り方を検討すべきである」という記載について、おおむね方向としては間違っていないが、性急な印象を受けるので、もう少し説明を加え、丁寧に表現した方が良いと思う。</p> <p>(5-6ページ)</p> | 事務局で修正案を検討する |
| (3) 医療的ケア児の支援体制の在り方 | | | |
| ① | 菊池、北川、藤原 | <p>【増加の背景に係る記載】</p> <p>「以前なら亡くなっていたケースであっても助かることが多くなってきた～」という記載について、誤解が生じないように、「子どもの命が救うことができるようになってきた」という趣旨に、修正した方が良いと思う。</p> <p>「近年」という記載について、NICUの増設はここ数年の話ではないので、修正した方が良いと思う。</p> <p>「新生児医療の発達により」という記載について、新生児だけでなく、出生後に事故などで医療的ケアが必要になる場合も考えられるので、単に「医療の進歩により」と修正した方が良いと思う。</p> <p>(4ページ)</p> | 事務局で修正案を検討する |
| ② | 北川、藤原 | <p>【支援体制の構築】</p> <p>以前までは、医療を重点的に求める声が多かったが、最近では、保育・療育といった部分を求める声が多くなってきており、保護者のニーズが少し変わってきた印象を受ける。</p> <p>また、次のような問題が顕在化してきたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出先など、一時的にでも過ごせる場所が少ない ・在宅において、保護者がずっと子どもや医療器具と向き合わなくてはならず負担が大きい <p>今後の協議の場においては、具体的に何ができるかというところまで、話を進めていただきたい。</p> <p>(6ページ)</p> | 参考意見のため、答申には反映しない。 |

| | | | |
|---|----------|---|--------------|
| ③ | 菊池 | <p>【国の動向を踏まえた対応】</p> <p>医療的ケア児の定義がどうなるか、それに基づき事業所は何をすれば良いか、報酬体系はどうなるかなど、国の動向を踏まえて、発展性を持って対応することが必要であると思うので、その旨を追記した方が良い。(6ページ)</p> | 事務局で修正案を検討する |
| ④ | 北川、藤原、山田 | <p>【協議の場における議論の方向性】</p> <p>専門的知識と技術が必要になる医療的ケア児が地域で生活できるような体制作りが必要であり、この支援体制をどうするかということについては、喫緊の課題であると考ええる。</p> <p>よって、答申素案では、協議の場において、単に「詳細かつ活発な議論が行われることを期待する」とされているが、「支援体制の構築を目指した～」を直前に加えるなど、もう少し具体的に記載した方が良い。(6ページ)</p> | 事務局で修正案を検討する |
| ⑤ | 加藤 | <p>【協議の場における札幌市の役割】</p> <p>「自立支援協議会の子ども部会に設置される協議の場～」という記載について、この組織の位置付けが分かりにくいため、札幌市が中心となって設置・運営するという趣旨を明記した方が良いと思う。</p> <p>(6ページ)</p> | 事務局で修正案を検討する |

【今後のスケジュール】

部会は今回で終了。

平成 30 年 3 月に開催予定の障がい者施策推進審議会に報告し、その後に、正式に答申となる予定。

【その他】

最後に、出席委員から、一言ずつ発言あり。

| 委員名 | 内容 |
|-----|---|
| 上田 | 障がい児について、これだけ深く議論をしたことはなかったと思う。この内容を大人の方にも生かしていきたい。 |
| 加藤 | 様々な人が集まって、札幌の子どもたちの幸せのために、一歩ずつ歩んできたという経過を改めて実感した。この流れを止めずに、障がいがあっても諦めなくてよいのだよと言ってあげられるような街にしたい。 |
| 菊池 | とても愛着のある札幌市の医療・療育なので、良い方向にしていきたいと思う。皆さんとお話できて良かった。 |
| 北川 | ぜひ、これを具現化して、子どもたちがどの地域で生まれても、また、様々な困り感があっても、幸せに生活できるような体制作りをしていきたい。参加 |

| | |
|----|---|
| | <p>させていただいてことに感謝するとともに、今後も、責任を持ってやっていきたいと思っている。</p> |
| 藤原 | <p>関係者で協力しながら、一つ一つ積み上げて、制度を作っていくことの重要性を再度認識した。委員の皆様に助けられて、この会を無事に終えることができ感謝している。</p> |
| 古川 | <p>今回、様々な話を聞く中で、まだまだ考えていかななくてはいけないことがたくさんあると気がついた。自分は、先のことを考えるのが大好きなので、今後このような機会があれば、また参加させていただきたい。</p> |
| 山田 | <p>今後、自分の仕事にも生かせると思う。ここでの話を、様々な機会に発信していきたい。</p> |